

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770301774
法人名	社会福祉法人 秋桜福祉会
事業所名	グループホーム楠根の里
訪問調査日	平成 20 年 6 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770301774
法人名	社会福祉法人 秋桜福祉会
事業所名	グループホーム楠根の里
所在地	大阪府寝屋川市楠根南町24-22 (電話)072-880-1165

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より】(平成20年6月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	22 人	常勤	6 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 12 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(300,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4)利用者の概要(6月6日現在)

利用者人数	14 名	男性	2 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 青樹会病院	医療法人 香川クリニック
---------	------------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生駒山系の山々が見える寝屋川市郊外に開設されて3年が経過する。事業所の特徴は、社会福祉法人の理事長でもある代表者が自ら介護職員として現場に毎日従事し、利用者や家族と接しながら、全職員が協力した運営が行われている事である。余裕のある充実した建物・設備の環境の下に、夫々の利用者は張り合いのある暮らしを支援してくれる職員に囲まれて、落ち着いた毎日を送っているように感じられる。職員の異動も少なく、看護師資格の職員を配し、利用者の健康体調管理を含めて事業所での暮らしについて家族に安心感を与えている。地域密着型の役割を果たす事業所としてさらに充実した内容を期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題へは前向きな姿勢での取り組みが見られるが、運営推進会議の開催は実現していない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に当たっては代表者と管理者が中心になって行ったが、次回には職員が参加して行えるように、サービス評価の意義を職員に徹底するようにして欲しい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域に根ざした事業所の運営スタンスは開設の段階から取り組まれているが、運営推進会議という形の会議は開催出来ていない。社会福祉法人の評議員に地域の代表を参加してもらうなどで事業所に対する地域の理解は得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望や意見の収集は主として代表者や管理者が対応して、家族の納得の行くような対応に努め、事業所の運営に活かしている。職員も家族が意見を言い易いように、普段から親しく声を掛けるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所としては地域との相互理解や連携を大切に考えた取り組みが行われている。自治会との交流やすぐ近くにある小学校の行事への参加等、利用者や職員による近隣住民とのより良い接触を積極的に取り組む姿勢がうかがえる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい心身ともに穏やかな状態を保ち、楽しみや張り合いのある暮らしをする」という独自の理念を作り上げて日常の介護に取り組んでいるが、理念の中に地域密着としての表現は入っていない。	○	現在の理念に加えて、地域に密着した事業所として果たすべき方向を表現の中に取り入れることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常活動においては、代表者と管理者および職員が一体となり、事業所の理念を共有して利用者の支援に当たっている様子がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の評議員に地域の福祉関係者を迎えて、設立当初より地域との良好な関係を維持するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護サービスの質の確保に向けた改善活動は代表者および管理者が中心になった取り組みが行われている。自己評価への職員の参加は課題である。	○	サービス評価は職員の参加が大切な要点であるから、職員による評価の意義の理解と自己評価への参加が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の評議員として地域の代表者が参加しているが、運営推進会議としては開催していない。	○	事業所が地域に開かれた施設となり、利用者が今後地域で暮らし続けるためにも、会議の出席者を選定して運営推進会議を定期的開催することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口担当と入所希望相談や運営上の相談等で情報の交流が良く出来る状態にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には職員が積極的に家族と接触して利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。訪問の少ない家族には電話等での連絡報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見の収集は代表者や管理者が中心になって対応して、家族の納得の行くような対応に努めている。職員も家族が意見を言い易いように親しく声を掛けるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所して以来、職員の異動はほとんどない。代表者自らが介護に携わっているために利用者に安心感を与えているように思われる。職員は馴染みの関係が大切であることを十分に認識している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は職員育成の必要性を認識して、限られた時間を工夫して出来るだけ研修に参加するようにしている。研修受講者による他の職員への研修知識の伝達に勤めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークは出来ていないが、行政窓口を活用した同業者の情報収集に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の際には、利用者が少しずつ新しい暮らしや、職員に慣れるように家族の協力を得ながら、本人本位の対応をするように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して、一人の人格として相手を尊重して接するように努めている。「介護」ではなく「暮らし」を大切にす姿勢で利用者として接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得ながら本人の暮らし方の希望を把握するように努めている。職員は利用者の人となり理解するよう、職員同士の情報共有を欠かさないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族やかかりつけ医などの関係者の意見を聞きながら本人本位の介護計画書を作成し、計画の実践を行っている。計画書の内容について家族へ説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画担当者は本人の変化の状況を常に観察すると共に介護記録や健康状態を確認して、職員や関係者と相談しながら適時の介護計画書の更新見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望・要望に対応して通院支援や外出支援等について出来るだけ柔軟に応じるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の契約医療機関による往診を受けているが、利用者および家族の要望を尊重して、以前からのかかりつけ医での受信についても支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、対応が必要な時には協力医療機関の協力を得ながら家族と相談の上、事業所として可能な限りの対応を行っているが、文書化されていない。	○	利用者や家族としては重度化した場合はどうなるのかは気懸りな点でもある。事業所として対応姿勢を出来るだけ文書化して指針として運用することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導や入浴時などには利用者のプライドを尊重しながら職員は声かけを行っている。記録等の個人に関わる情報についても取り扱いに気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者個々の生活のリズムを優先しながら、利用者がホームでの共同生活と調和した暮らしが出来るように、利用者ごとに調整した支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は地理的な事情もあり食材業者より仕入れているが、お米や野菜は代表者の自宅の農作物を使用している。利用者が参加した食事作り(コロッケや餃子づくり)も定期的に行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯を決めた対応になっているが、健康管理と清潔保持を考慮しながら、利用者の希望に合わせて入浴を楽しみなが出来るように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はカラオケ、トランプ、お手玉作り、習字などの趣味や、洗濯物干し、掃除などの家事を利用者と一緒に行いながら、生活を通じての利用者の残された能力を出来るだけ活かすように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者の体調と相談しながら、出来る限り外の空気に触れるために近くへの散歩を心がけている。玄関前には庭園が作られて、季節を感じる木花に接することが出来る。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者および職員は鍵をかける事の利用者に及ぼす問題を理解した上で介護に当たっている。止むを得ないときは家族に了解を求めるなど、出来るだけ拘束のないケアの実現を目指している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物の防火設備は完備している。消防署の協力を得た避難訓練を定期的実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録して管理している。栄養バランス等への配慮も利用者の個別の体調に応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭から居間や食堂、廊下に自然な光が採り入れられ、浴室トイレも広いスペースが確保されている。利用者が食堂・居間で過ごす時間が長いので落ち着いて過ごせるように共用空間での季節感への配慮に努力している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の夫々の居室は使い慣れた私物が持ち込まれて、落ち着いて自分の時間が過ごせる雰囲気になっている。職員が本人や家族と相談して居室作りに工夫をすると共に、清潔保持に努めている様子がうかがえる。		